

し、LPG車市場の再活性化を目指す。
ユーエル車。座席を嵩めばフルフラットになる

一昨年7月には軽バンタイプのハイゼットカーゴのバイフェューエル車への改造で実用新案を取得。改造車種のレパトリーを増やした。今後もガンリン仕様車と使い勝手がほとんど遜色のないバイフェューエル車の良さを広めることに、改造技術の向上に励む。



トヨタ自動車（本社・豊田市、豊田章男社長）は9月末をメドに、軽貨物クシシーのバン仕様車をリリースする。後部座席を外して荷室空間に転用し、木質ボードでフラットな床面を確保することで200キログラムの積載量を實現。タクシーが備える耐久性と安全性、乗り心地はそのままにLPGカ

はもたせ、LPG車の環境面や経済面の優位性を抑え、トータルでのコストメリットを訴求する。環境に優しく、災害対応力に優れたLPGガスの向上やBCP対策、地域貢献にも寄与する。荷室は二つに分かれ、後部座席を外したスペース（2列目）の寸法が幅139×高さ133×長さ81センチ程度、ラゲージスペース（3列目）の寸法が幅112×高さ107×長さ58センチ程度。開発の背景には、輸送



タクシーはコンセプトが異なるが、綿密な市場調査をもとに、新開発のサス

需要の増加や運転手不足など法人顧客を取り巻く環境の変化がある。法人顧客からヒアリングするなかで、普段運転をしながら慣れたドライバーが仕事でハンドルを握る機会が増えたため、年齢性別を問わず、すべてのドライバーにとって高い安全性と使い勝手を備え判断した。

併燃車販売2500台超え

エフ・ケイメカニックス タクシー・教習用急伸

エフ・ケイメカニックス（本社・大分市、古川克己社長）は2007年にバイフェューエル車の販売を開始。累計販売台数は今年3月に2500台を突破した。

近年は特に教習車とタクシーの需要が伸びており、教習車は昨年までに大分市で30台、今年福岡市と飯塚市で計70台を納車。九州外からも引き合いが殺到している。

自動車の普及に伴って、バイフェューエル車に注目しているのがタクシー業界だ。コンパクトに代わりジャパンタクシーへの更新が急速に進んだ



バイフェューエル化した「トヨタ教習車」と古川克己社長。今年福岡市と飯塚市の自動車学校に計70台を納車済み

欧州で多数の実績がある電子制御LPGガス気体噴射+バイフェューエルシステムを採用。市販のガンリン車に追加架装し、LPGガス燃料を運用する。

ガソリン機能はそのまま、予備燃料の役目を果たす。近年は特に教習車とタクシーの需要が伸びており、教習車は昨年までに大分市で30台、今年福岡市と飯塚市で計70台を納車。九州外からも引き合いが殺到している。

自動車の普及に伴って、バイフェューエル車に注目しているのがタクシー業界だ。コンパクトに代わりジャパンタクシーへの更新が急速に進んだ

3.11東日本大震災時の停電生活でわかったこと...
暗いし寒いし、電気がないと超不便!! あればすごく助かるのに...